

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国歴史教育研究協議会

(代表者 南 和男 会員数 約16,200人)

T E L 0422-51-4554

共通テストが3年目を迎えた。一昨年度・昨年度は新テストということで、手探りの中での作問であったと思われるが、2年間の経験を踏まえつつ大学入学共通テスト問題作成方針（以下「問題作成方針」とする）をより反映する作問がなされたものと推察する。本稿では、1の「はじめに」では追試験「世界史A」と「世界史B」の全般的な概略について、2の「試験問題の程度・設問数・配点・形式等」では問題の内容・程度・設問数・配点・形式などの科目別の意見や要望について、3の「総評・まとめ」では総括的な評価、4の「今後の共通テストへの要望」では全体的な要望について述べる。

1 はじめに

今年度の共通テストの分析を終えてみて、昨年同様問題の内容やレベルともに教科書に準拠しており、日常の授業で対応できる内容になっており、共通テストとして極めて妥当であると考え。出題形式に関しても、設問文だけで答えが導き出せる「基礎的な知識及び技能」に偏った出題を脱却しようという試みが見られることに敬意を表したい。

「思考力・判断力・表現力等」を問う出題は、それ自体では難しいかもしれない。一方で、学習指導要領の地理歴史科の目標は、「我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う」とあり、「世界史A」の目標は、「近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とある。また、「世界史B」は、「世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とある。

今回の問題作成方針にある「歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」という視点が、実際の作問においてどのように反映されているかということについて、大いに期待するところであり、リード文やそれに付属する図表を精読することでしか解けない出題が今後増えていくことによって、知識・理解だけでなく資料活用能力を見る設問も増加し、単なる暗記物に終わらない高等学校世界史の本格的な授業が高等学校の現場で実現できることを期待している私たちから、共通テストが大学入試問題の一方の頂点に立つべく、更なる御検討をお願いする次第である。

以下、今年度の「世界史A」と「世界史B」の共通テスト問題について、限られた紙面の中では

あるが、今後の御検討の一助になることを期待して、本協議会の意見と評価を記す。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

(1) 「世界史A」について

大問数4問、小問数30問構成、試験時間は60分間で、配点は100点満点である。

出題を正解の選択肢を基に判断すると（以下同じ）、問題の出題形式における内訳は、以下のとおりである。正文選択問題が9問、誤文選択問題が2問、2文正誤問題が3問、空所補充問題が6問（空所一つを補充する問題が2問、空所二つを補充する問題が4問）、空所補充と正文選択を組み合わせる問題が5問、年号・年代に関する問題が4問、地図問題が1問である。上記の問題のうち、文字資料から読み取る問題が4問、リード文から読み取る問題が2問、統計や数値データから読み取る問題が4問出題、地図が関係する問題は3問出題された。教科書では扱われない資料やデータを読み取り、既習事項と組み合わせて思考力・判断力・表現力等を問おうとする問題は増加する傾向にある。

出題範囲（分野や時期）について、分野別の出題は政治・外交史が22問、社会経済史が6問、文化史が1問、複数分野に関するものが1問である。出題時期に関しては、古代史が0問、中世史が2問、近世史（15～17世紀）が3問、近代史（18～19世紀）が8問、現代史（20世紀以降）が12問、うち戦後史が3問である。「世界史A」の目標にある「近現代史を中心とする世界の歴史」という観点からみると、近現代史が大きな割合を占めているため、妥当である。また、直接21世紀に関わる出題としてオバマが解答となる問題が出題された。地域別にみると、ヨーロッパ史から12問と最も多く、アジア史から8問、アフリカ史から1問、複数地域に関わる問題は8問と増加傾向であった。一方で、中南米・オセアニアに関する問題は出題されず、若干偏った出題傾向となった。

全体として、学習指導要領や問題作成方針に沿った標準的な難易度となっていたが、出題内容が一部の教科書にしか記載されていない出題が散見された。作問の段階で全ての教科書を参照することは困難なことだと思われるが、「世界史A」の受験者が教科書を中心に学習を進めていることや「世界史B」の受験者との学力の差を考慮すると、教科書の内容に沿った出題が妥当だと思われる。

第1問 歴史の動きとモノや習慣との関係について

Aは内陸アジアの遊牧民に関する文章からの出題

問1 空欄Aに入る人物について、適当な文を選択する問題。正答となるサマルカンドは1社の教科書に記載がなく、その他の選択肢も教科書によっては記載がない。特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問2 年代整序問題。それぞれの文は教科書によっては記載がないものがあり、特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問3 空欄に入る語句と文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。正答となる染付をはじめ選択肢の伊万里焼、赤絵も多くの教科書に記述がなく不適切。文章の正誤問題については基本的な知識を問う問題。

Bは20世紀のアジアやアフリカにおける政治指導者たちの服装に関する文章からの出題

問4 空欄ウに入る人名とその人物について述べた文について、正しい組合せを選択する問題。正答となるスカルノは1社記載がなく、スカルノがアジア＝アフリカ会議に参加したことについては2社記載されていない。特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問5 綿の歴史について、適当な文を選択する問題。ハーグリーヴズがジェニー紡績機を発明したことは1社記載がなく、その他の選択肢も教科書によっては記載がない。特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問6 問題文を参考にしつつ、アジアやアフリカの政治指導者について述べた文について、正しい組合せを選択する問題。

Cは纏足に関する文章からの出題

問7 空欄エに入る王朝とその王朝について述べた文について、正しい組合せを選択する問題。空欄エのキーワードとなる八旗は記載されていない教科書もあるが、文章中の太平天国から解答可能。正答となる選択肢の理藩院に関する記述は3社記載がなく、その他の選択肢も教科書によっては記載がない。特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問8 空欄に入る語句と文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。地図を使用した問題であるが、基本的な知識を問う問題。

問9 問題文を参考に、纏足の歴史について、適切な文を選択する問題。問題文の適切な読み取りで解答できる。

第2問 歴史上の国民や国家について

Aは歴史用語の翻訳についての会話文からの出題

問1 文章中の空欄に入る語句の正誤について、正しい組合せを選択する問題。一見すると宣言の内容を暗記していないと解答できないように思われるが、宣言の特性や背景を理解し、資料や会話文を手掛かりに思考する力が求められる良問である。

問2 年代整序問題。提示された資料が何かを判断した上で年代順に並び変えるため二つの思考が求められる。資料そのものは基本的な知識で判断できる。

問3 年号・年代に関する問題。消去法である程度絞り込むことができるが、1930年代のドイツは状況が目まぐるしく変化すること、ベルリン・オリンピックについて記載がない教科書もあることを考えるとやや難しい問題だと考える。

Bは梁啓超の論説に関する会話文からの出題

問4 梁啓超が日本に亡命した要因となった出来事とその出来事を説明した文について、正しい組合せを選択する問題。甲申政変、戊戌の政変ともに記載がない教科書があり、特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問5 会話文の空欄に入る適切な文を選ぶ問題。基本的な知識を問う問題であるが、①の匈奴に関する記述は第1問の問2の文と重複している。

問6 問題文を参考に、梁啓超の立場について適切な文を選択する問題。問題文の適切な読み取りで解答できる。

第3問 20世紀を動かした政治家について

Aは音楽家レオポルド＝アウアーがアメリカで刊行した回想録からの出題

問1 ロシアで国会（ドゥーマ）が開設された経緯について、適切な文を選択する問題。1社記載がないが、リード文から20世紀の出来事であると推測できるため妥当であると考えられる。

問2 文章中の二つの空欄に入る人名と下線部に関するアウアーの評価について、適切な組合せを選択する問題。ケレンスキーについては4社記載がないが、消去法で解答可能。資料を最後まで読み込み、アウアーの評価を読み取る思考力も問われる良問である。

問3 資料内で描かれている事柄のうち、4月の状況について適切な文を選択する問題。二重権力状態については3社記載がないが、ロシア革命の流れを正確に把握していれば解答

は可能と思われるため、やや難だが妥当であると考え。

Bはムッソリーニの『自叙伝』からの出題

問4 文章中の二つの空欄に入る国名について、適切な組合せを選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問5 イタリア統一にまつわる領土の変化について、地図で問う問題。いずれの教科書も地図を掲載し、色分けなどで領土の変化を示しているものの、本文中に明確に示されているのは4社のみと記述内容に差が見られる。特定の教科書で学習した生徒が有利になるような問題となり不適切。

問6 ムッソリーニが植民地化を目指して侵略したアフリカの国または地域の歴史について、適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

Cは第二次世界大戦以降の世界についての会話文からの出題

問7 マルタ会談に参加せず、ヤルタ会談に参加した人物について、適切な文を選択する問題。トロツキーについての記述がない教科書が2社あるものの、ヤルタ会談の参加国から推測できるため妥当であると考え。

問8 文章中の二つの空欄に入る語句について、適切な組合せを選択する問題。オバマについては1社記載がないものの、年代から推測可能であり、妥当であると考え。

問9 年代整序問題。EC・EUに加盟した国を古い順に並び替える問題で基本的な知識を問う問題だが、国は地図で示されているため地理的な知識も問われる。

第4問 統計資料について

Aは世界の主な地域におけるそれぞれの人口と世界GDPの割合について年代別にまとめた資料からの出題

問1 表から読み取れる事柄とその要因について、適切な組合せを選択する問題。表の読み取りと基本的な知識で解答可能。

問2 歴史上の経済や生活の変化について、適切な文を選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問3 グラフから立てられる問いとその問いに対する仮説について、適切な組合せを選択する問題。グラフの読み取りと基本的な知識で解答可能。

問4 文章中の二つの空欄に入る国名について、適切な組合せを選択する問題。基本的な知識を問う問題。

問5 生徒たちがまとめたメモの正誤について述べた文について適切なものを選択する問題。グラフの読み取りと基本的な知識で解答可能。

問6 文章中の空欄に入る国名として、適切なものを選ぶ問題。基本的な知識を問う問題。

(2) 「世界史B」について

大問数5問、小問数33問構成、試験時間は60分間で、配点は100点満点である。

出題を正解の選択肢を基に判断すると(以下同じ)、問題の出題形式における内訳は、以下の通りである。正文選択問題が19問、誤文選択問題が2問、空所補充問題が1問、空所補充と資料選択とを組み合わせる問題が1問、地図を活用した問題が1問、統計や数値データから読み取る問題が1問、年代整序問題が1問、リード文や資料から読み取った内容を基に選択する問題が7問、出題された。

出題範囲(分野や時期)について、分野別の出題は政治・外交史が25問、社会経済史が1問、文化史が1問、複数分野に関わるものが6問である。政治・外交史に大きく偏っていた。出題時

期に関しては、古代史が2問、中世史が3問、近世史（15～17世紀）が6問、近代史（18～19世紀）が6問、現代史（20世紀以降）が5問、うち戦後史が1問である。地域別にみると、西欧・北米史から11問と一番多く、東欧・ロシアから5問、東・内陸アジアから7問、南・東南アジアから3問、西アジア・アフリカから1問、中南米・オセアニアから1問、複数地域に関わる問題が5問である。令和5年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と記載がある。初見の資料から必要な情報を読み取り、授業で学んだ知識と関連付けて考えさせる問題や会話文から読み取った内容を基に知識を土台として考えさせる問題など、問題作成方針に即した思考力や判断力を評価する出題が多くみられる。しかし、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題については、あまり多くみられなかった。問題全体の難易度は、基礎的な学習の到達度を幅広く問う標準的な問題となっている。

第1問 「世界史上の女性権力者」

- 問1 空欄に入る人物を考え、その人物の治世に起こった出来事として正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問2 オーストリア継承戦争および七年戦争に関連する出来事について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問3 会話文を読み、大学生が選んだ題材として正しいものを選択する問題。会話文の全体を読む必要があり、思考力と知識の両方を問うている良問である。
- 問4 空欄に入る人物を考え、その人物の治世に起こった出来事として正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問5 西太后が実権を持ち始めて以降の時期の清朝について、正しい文を選択する問題。西太后に関する会話文から読み取った内容と知識・理解を土台として判断力を問うような問題など工夫が必要である。
- 問6 空欄に入る人物と資料を組み合わせた問題。西安事件という用語を問うのではなく、資料を選択させる形式は思考力と知識の両方を問う良問である。

第2問 「世界の諸地域における、君主を中心とする秩序のあり方」

- 問1 ハンガリーの歴史について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問2 ヨーロッパにおける君主について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問3 文章から読み取れる内容と空欄に入る人物を組み合わせた問題。文章の全体を読む必要があり、知識・理解を土台として、思考力が問われている良問である。
- 問4 文章の内容と二文の年代整序問題。文章はシャー=ルフによる使節派遣に関する内容であるが、シャー=ルフは教科書や世界史用語集にも記載がない用語である。しかし、ウルグ=バクの父とあり、ティムール朝とも明記されているため14世紀後半から16世紀初頭と推測は可能であるため、問題としては妥当である。チョーラ朝が東南アジアに遠征した（11世紀）は抜けていた受験者も多かったように感じる。全体的に並び替えることに苦慮したように考える。
- 問5 空欄に入る王朝または国とイクター制の説明を組み合わせた問題。単純に知識を組み合わせた問題。
- 問6 空欄に入る語句として正しいものを選択する問題。単純に知識を問うているのではな

- く、文章を読んだ上で判断する必要がある、思考力を問う問題であった。
- 問7 空欄に入る戦争について、戦争の原因として正しいものを選ぶ問題。空欄には百年戦争が入ることは資料を読まなくとも、空欄の後の「イングランド王の大陸所領はカレーのみ」から判断できてしまうため、思考力を問うためには、資料を活用した問題にする工夫が必要である。
- 問8 フランスの絶対王政について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問9 資料から読み取れる内容と資料の内容を受けて起こった出来事とを組み合わせた問題。知識のみで解答することは厳しく、資料から読み取るのみならず、資料から読み取った内容を基にその後の出来事も推測させるため、複数の思考を働かせる良問である。

第3問 「人の移動の歴史」

- 問1 空欄に入る国について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問2 明の朝貢国について、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問3 賀登極使に任じられた呉允謙の出発地の位置と目的地の都市の歴史を組み合わせた問題。出発地と目的地は文章から読み取るため、思考力と知識・技能を組み合わせた良問である。
- 問4 商人について、正しい文を選択する問題。選択肢が地域と年代ともに複数混合しているが、基本的な知識を問うものである。
- 問5 図を用い、図で扱った時期（15世紀末から16世紀前半）において、図中のいずれかの都市で起こった出来事とその都市からヴェネツィアに送られる書簡の到着に要する平均期間を組み合わせた問題。知識を問うだけでなく、フィレンツェの位置を理解しており、図中の同心円状は何を表現しているか、会話文から読み取って解答する必要があり、思考力と知識・技能を組み合わせた良問である。
- 問6 空欄に入る海戦の名と文を組み合わせた問題。基本的な知識を問う。

第4問 「資料の書き手が生きた時代やその立場」

- 問1 空欄に入る語と著者が「ロシアのくびき」という表現を用いた意図を組み合わせた問題。意図については、資料と会話文から読み取る必要があり、知識を土台として思考力を問う良問である。
- 問2 19世紀のロシアについて、正しい文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問3 アフガニスタンの歴史について、正しい文を選択する問題。文章と各問との関連性が薄かったため、文章から読み取った内容を基に、知識を問うような問題にするなど工夫が必要である。
- 問4 カエサル・アウグストゥス・ディオクレティアヌスについて、正しい文を選択する問題。問題文は文章から3名の人物を導き出すことを求めており、文章を読ませたい作成者の意図は伝わるが、基本的な知識を問うものである。
- 問5 ローマ衰退の背景について、正しい文を選択する問題。④は知識のみならず、文章からも判断する必要があり、思考力と知識の両方を問う良問である。
- 問6 『ローマ人盛衰原因論』の著者について、正しい文を選択する問題。

第5問 「世界史上の人権侵害や差別」

- 問1 二つの空欄に入る語を組み合わせた問題。それぞれの空欄前後を読むだけ、かつ知識だけを問うものであり、会話文を読み取った上で解答するような問題に工夫が必要である。
- 問2 移動の自由や職業選択の自由を含む人権の歴史について、誤文を選択する問題。基本的な知識を問う。
- 問3 グラフから読み取った内容を基に、メモ中の空欄に入る文として正しいものを選択す

- る問題。グラフのみならず、会話文から読み取った内容を基に判断する必要があり、複数の思考を働かせる良問である。
- 問4 空欄に入る戦争の後、ラテンアメリカにおけるアメリカ合衆国の影響について、正しい文を選択する問題。空欄に入る戦争さえ明らかにすれば、知識のみを問う内容である。
- 問5 二つの空欄に入る語・語句を組み合わせた問題。会話文が風刺画の解説をしている。風刺画と会話文から読み取った内容をもとに判断させており、思考力を問う良問である。
- 問6 アメリカ合衆国における差別やその解消について、誤文を選択する問題。基本的な知識を問う。

3 総評・まとめ

(1) 「世界史A」について

今年度の「世界史A」は、全体的に新課程での学びを意識した問題構成だった。対話文からの出題や図版とリード文の組合せからの出題が多くあり、単発の知識だけでなく、一步踏み込んだ思考力・判断力を問おうとするものが随所に見て取れた。個々の問題は興味深く、受験者に気付きを与えるもので、設問内容については評価したい。

一方で、例年の懸念事項であるが、本年も特定の教科書にしか掲載・記載のない事項が出題されているものが散見された。「世界史A」は各学校において、教科書を軸として授業を進めるため、いずれの教科書で学習を進めたとしても対応できうる問題設定でなくては平等性に欠ける。「世界史B」とは異なる学習状況に鑑み、この点に関しては、改めてご配慮の上で問題を作成していただきたい。

(2) 「世界史B」について

本年度の「世界史B」は学習指導要領における「世界史B」の目標に照らし合わせて、地域・時代等のコンテンツ、問題の難易度、出題の形式といった面から適切な問題であった。問題作成方針にある「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」に沿った問題の比率が高く、知識の理解を問うのみならず、思考力や判断力を測る問題が多くみられ、歴史的思考力を評価する適切な問題が多くみられた点は評価できる。一方で、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題については、あまり多くみられなかったため、この点については改善の余地がある。

また、追試験の方が本試験よりも2週間準備にかけられる時間があるにもかかわらず約4,000字(400字詰め原稿用紙10枚分)文字分量が少ない(=少ない分だけ楽)という状況が妥当であるのか、出題者の見解を伺いたい。前述したように、個々の問題や問題の配分は学習指導要領や教科書の内容に沿っており、高等学校の現場における「世界史B」の授業における時間配分が十分配慮された出題であった。また、高等学校で学習した内容をしっかりと理解している受験者が正答できる良問が多く、全体を通じて、非常にバランスの取れた出題であっただけに残念である。

最後に、問題作成にご尽力なされた方々に、感謝申し上げたい。

4 今後の共通テストへの要望

報告書(本試験)の方に記載。